

2025 年卒
Vol. 01

9 月後半時点の就職意識調査

キャリタス就活 学生モニター2025 調査結果 (2023 年 10 月発行)

コロナ禍からの業績回復を受け、企業の採用意欲は旺盛な状況が続いている。学生優位の売り手市場と言われる中で就職活動に臨む 2025 卒学生にはどのような特徴が見られるだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、9 月後半時点での就職意識や就活準備状況などを尋ねた。

1. インターンシップ新定義への意識

○応募時に新定義の類型を意識する学生は 24.0%。「意識しない」が過半数 (51.4%)

2. インターンシップ等 (※) への参加状況

- 汎用的能力活用型インターンシップ (タイプ 3-①) の参加経験者は約 3 割 (29.0%)
- 前年同様 1 日以内のプログラムへの参加が主流も (87.5%)、5 日間以上への参加が増加
- 対面での参加経験率がさらに上昇し 8 割超に (82.5%)。オンラインは 9 割 (90.8%)

3. 参加してよかったこと、不満に思ったこと

- 参加してよかったことは「興味のある業界の知識や理解が深まった」が約 8 割で今年も突出
- 不満点は「仕事のイメージが掴めなかった」「実践的な仕事を体験できなかった」が上位

4. 今後のインターンシップ等への参加予定

- 今後の参加希望時期は「11 月」と「12 月」が多く、年内の参加を希望する学生が目立つ
- 志望業界の企業を中心としながらも、「少しでも興味があれば参加したい」が 6 割超

5. 就活準備イベントへの参加

○オンラインでの参加が依然主流も、会場型への参加が 3 カ年で大きく増加 (37.6%→67.5%)

6. 業界研究・企業研究に力を入れたい時期

○業界研究は 6 月～10 月がボリュームゾーンで、前年よりやや早期化。企業研究は 8 月～12 月

7. 就職活動に関する情報の入手先

○「就職情報サイト」が最多 (94.5%)。「各企業のホームページ (採用サイト)」(75.0%) が続く

8. SNS 利用状況

○就活での SNS 利用、「LINE」が 4 割強で最多 (43.8%)。「X (旧 Twitter)」は 3 割台 (35.8%)

9. 就職活動への不安

○「とても不安」が減少も、「やや不安」を合わせ約 9 割が「不安がある」と回答 (計 88.2%)

※「インターンシップ」に限定せず、1 日以内のプログラム等も含めて尋ねた

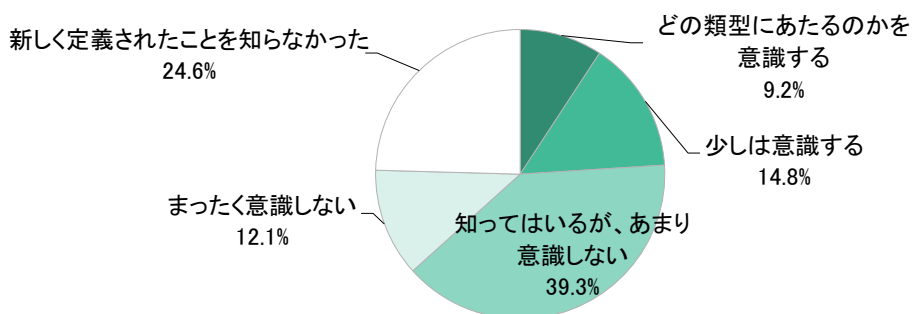
調査概要

調査対象 : 2025 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 917 人 (文系学生 580 人、理系学生 337 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023 年 9 月 22 日～29 日
サンプリング : キャリタス就活 学生モニター2025

1. インターンシップ新定義への意識

今年度から適用されたインターンシップの新定義について、プログラムを探したり実際に応募したりする際に、どの程度意識するかを尋ねた。「どの類型にあたるのかを意識する」(9.2%)、「少しは意識する」(14.8%)を合わせて、意識する学生は24.0%。意識しないとの回答が半数を超える(計51.4%)。現時点では、どの類型に該当するかどうかより、実際のプログラム内容や業界などを優先して選ぶ学生が多いようだ。

<インターンシップ新定義を応募時に意識するか>



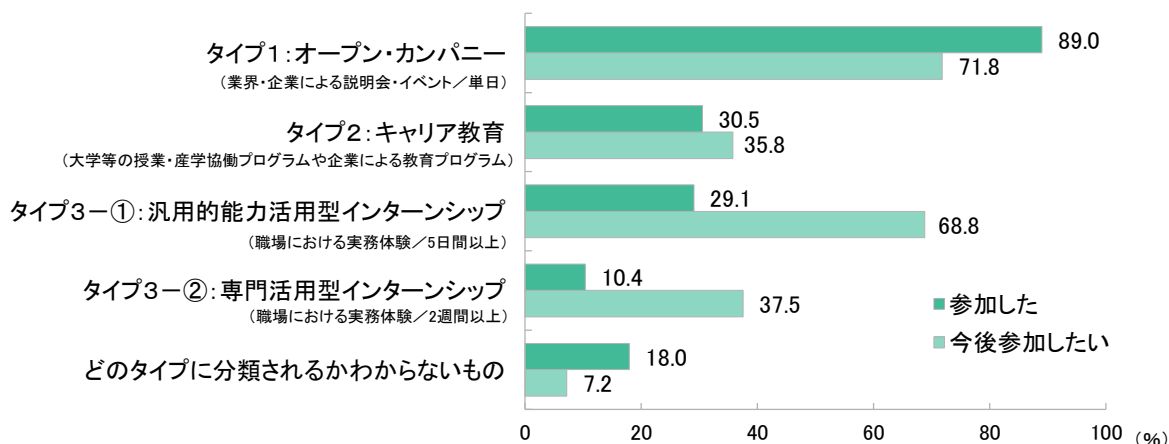
■新定義への意識

- インターンシップが選考に関わるということを入念に入れて真剣に取り組んだ。 <文系男子>
- まだ志望業界が決まっていないので、幅広く気軽に見るために、オープン・カンパニー型のものを選んでみた。 <文系女子>
- 早期選考に繋がるように、タイプ3の5日以上のインターンシップを探すように意識していた。 <理系女子>
- 企業理解や情報収集メインで考えていたため、それが果たされるなら何でもよかった。 <理系男子>
- 類型のことを意識するよりは、まずは手当たり次第やってみようと思った。 <文系男子>
- 研究室の都合上、長期間のプログラムは以前から難しかったため、名称が変わっても影響は少なかった。 <理系男子>

2. インターンシップ等への参加状況

キャリア形成支援の類型別に参加経験と今後の参加意向を尋ねた。「タイプ1：オープン・カンパニー」は、経験率が9割近くに上る。今後の参加意向も7割を超え高い(71.8%)。「タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ」は、経験率は約3割(29.1%)だが、参加意向は7割近くに上り(68.8%)、差が大きいのが目立つ。

<キャリア形成支援 類型別参加状況と今後の参加意向>



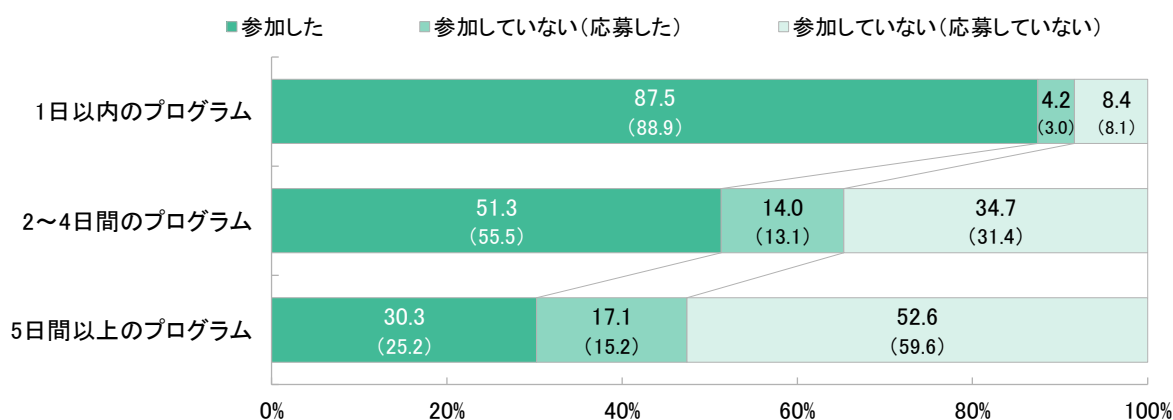
続いて参加状況を実施日数別に尋ね、前年調査の結果と比較した。

「1日以内のプログラム」への参加経験を持つ学生の割合は8割台後半で(87.5%)、前年調査に引き続き高い割合を示している。「2~4日間のプログラム」の参加率は51.3%で前年より減少した一方で、「5日間以上のプログラム」は増加し3割を超えた(30.3%)。「5日間以上」は参加社数も僅かながら前年より増えている(平均1.3→1.4社)。ただ、応募はしたものの参加できていない学生も多く、依然狭き門であることがうかがえる。

参加社数が多いのは、参加率同様「1日以内のプログラム」で、平均6.3社と前年調査(5.8社)よりさらに増加。短期プログラムへの参加が中心となっていることがわかる。

参加時期は夏季休暇中の「8月」「9月」が多いが、「7月」以前が前年調査より増加しており、早くから参加し始める傾向が強まった。

< インターンシップ等の参加状況 >



* オンライン形式も含む

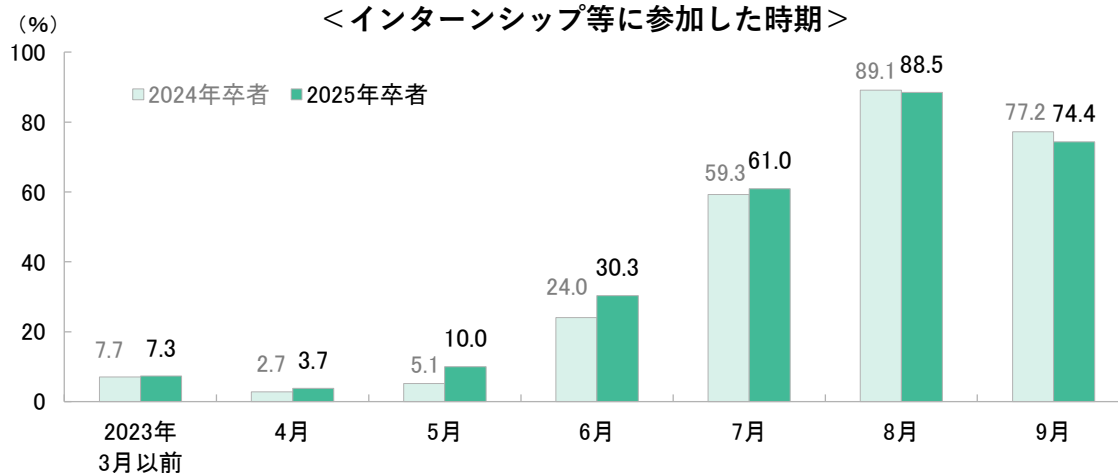
※()内は2022年9月調査の数値

< インターンシップ等参加社数/平均 >

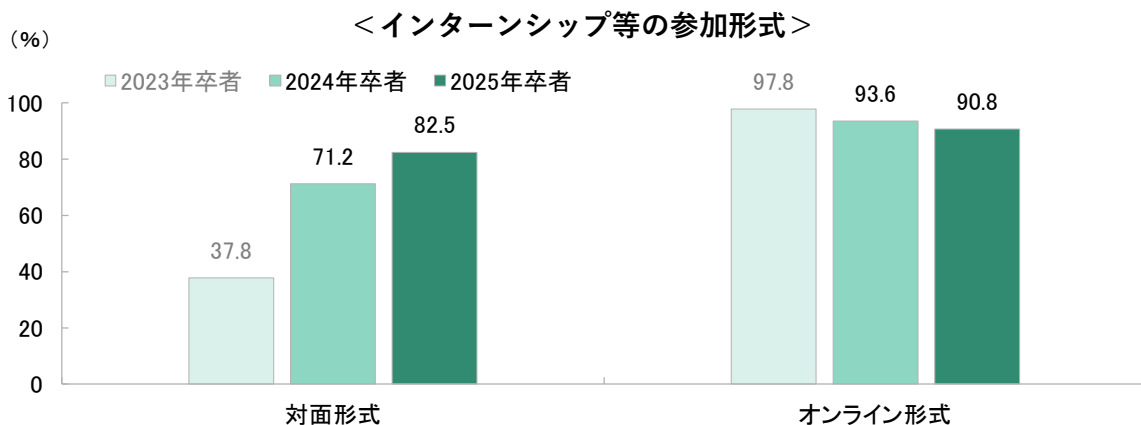
	(社)				
	全体	2024年卒者	2023年卒者	文系	理系
1日以内のプログラム	6.3	5.8	5.6	6.8	5.3
2~4日間のプログラム	2.3	2.3	2.3	2.4	2.0
5日間以上のプログラム	1.4	1.3	1.3	1.4	1.5

※それぞれの参加者が分母

< インターンシップ等に参加した時期 >

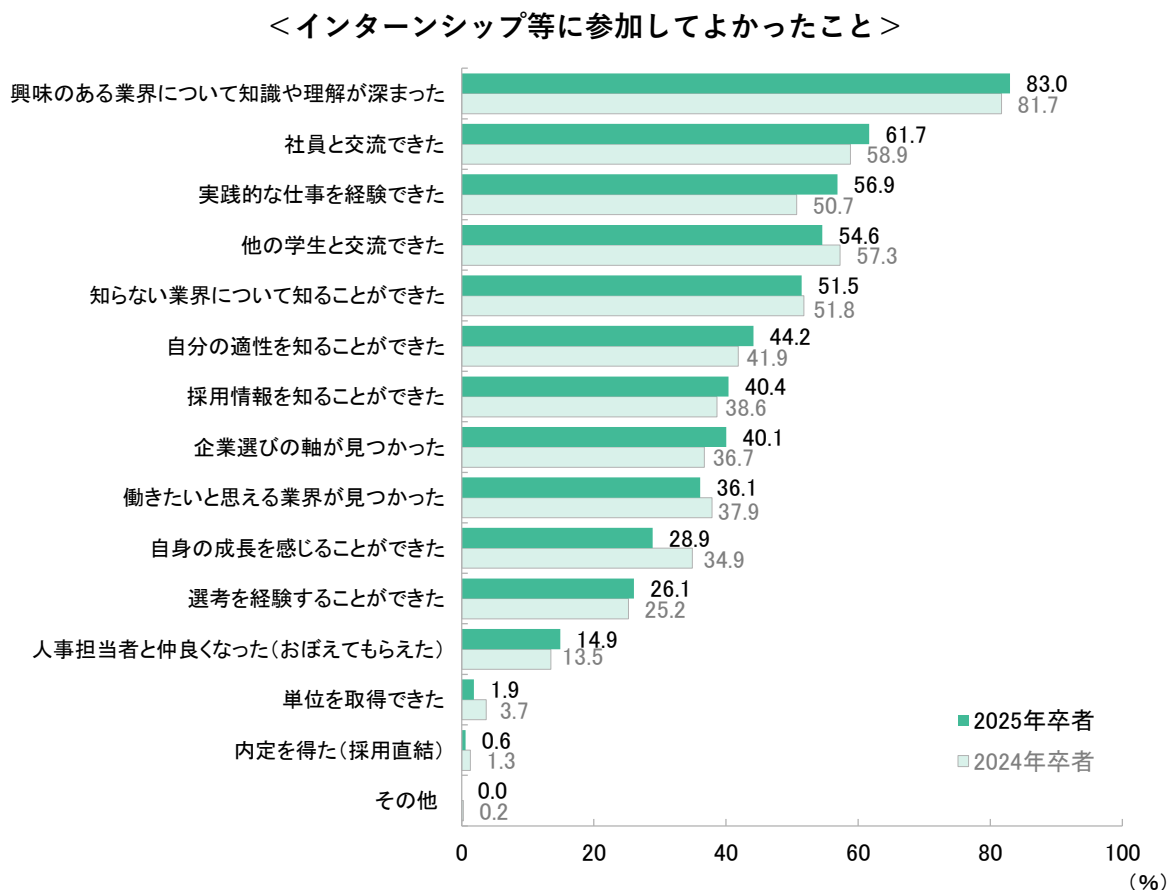


参加形式について見てみると、対面形式のものへの参加率は8割超(82.5%)。前々年から前年にかけて大幅に増加したが、今年さらに10ポイント以上増加。対面での実施企業がさらに増えたことがうかがえる。オンライン形式の参加率は9割(90.8%)。前年よりやや減少したものの、ほとんどの学生が参加経験を持つ。形式を問わず、意欲的に参加していることがわかる。



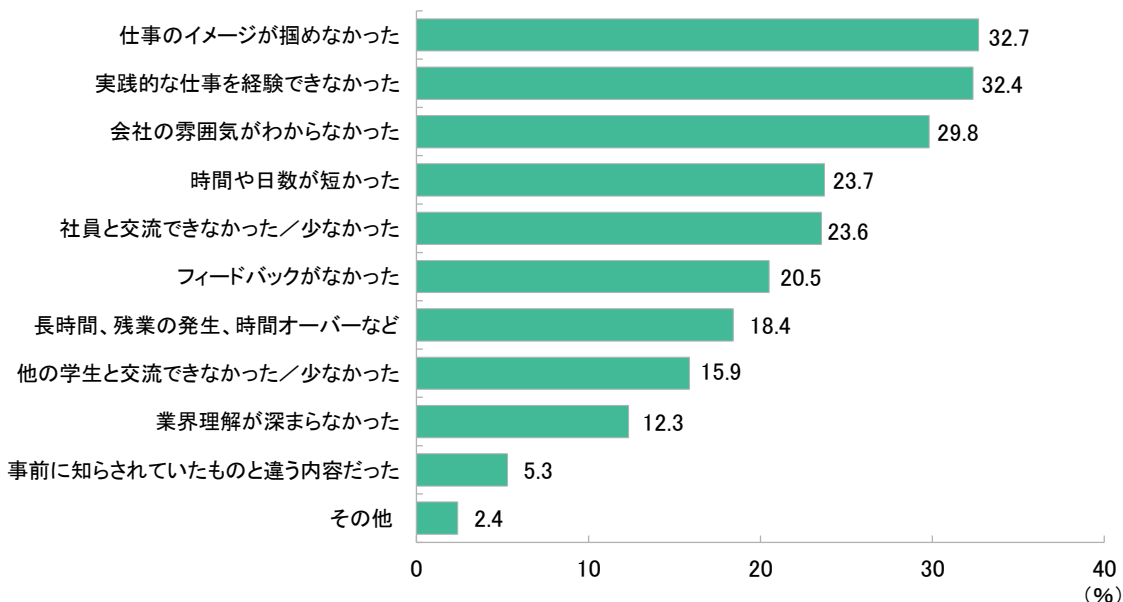
3. 参加してよかったこと、不満に思ったこと

インターンシップ等のプログラムに参加してよかったことを尋ね、前年の調査結果と比較した。最も多いのは今年も「興味のある業界について知識や理解が深まった」で、8割超と突出している(83.0%)。続く「社員と交流できた」(61.7%)、「実践的な仕事を体験できた」(56.9%)は、それぞれ前年よりポイントが増加した。対面での参加が増えたことが影響しているとみられる。



反対に、参加して不満に思ったことを尋ねたところ、64.8%が何らかの不満を感じたことがあると回答した。具体的には、「仕事のイメージが掴めなかった」(32.7%)、「実践的な仕事を体験できなかった」(32.4%)、「会社の雰囲気がわからなかった」(29.8%)がそれぞれ約3割。1日以内のプログラムへの参加が多いことから、知りたい情報が十分に得られないケースも少なからずあったようだ。

<インターンシップ等に参加して不満に思ったこと>



■よい印象をもったプログラム

【対面形式】

- 1週間にわたって直接業務について教えてもらい、知らなかった業務の詳細や、待遇面の実態、残業の程度について知ることができた。 <理系男子>
- 文系総合職の中でも主要な5職種の社員の方々から、2日間かけて話を聞くことができ、それぞれの職種の理解ワークもあったため、非常に勉強になった。 <文系男子>
- 最も興味のある技術開発の現場で実習を行えた。職場の雰囲気を知ることができた。 <理系女子>
- 1グループに1人メンターとしてついてくれて、細かいフィードバックをくれたことで、自己分析などに役に立った。 <文系女子>

【オンライン形式】

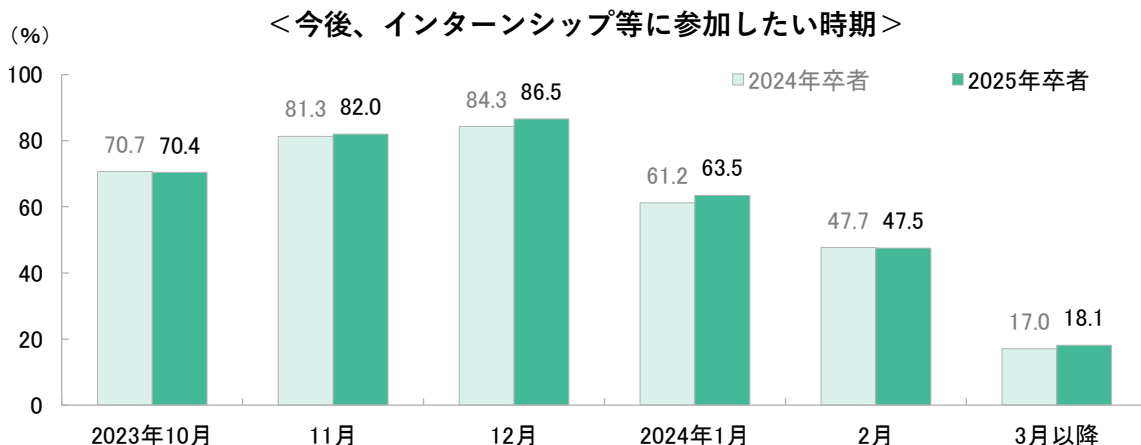
- 具体的な業務についてのワークを行い、グループメンバーとの協力の大切さや、仕事を進めていく上での難しさについてしっかりと理解できたためよかった。 <理系男子>
- 質疑応答の時間を長くとって下さったため、疑問を解決することができた。 <文系女子>
- フィードバックがしっかりしていて、とても勉強になった。 <文系男子>
- 社内をカメラで写して紹介するコーナーがあり、社内の雰囲気が掴めた。 <文系男子>

■不満に感じたプログラム

- グループワークがほとんどで企業の社員の方と交流する機会がないものは、企業理解につながらず少し不満が残った。 <文系女子>
- ワークや質問の時間が短い場合が多い。直接社員さんに質問したいから参加しているので、もっと質問の時間を取って欲しい。 <文系男子>
- フィードバックがなかったり、時間をオーバーしたりした点が嫌だった。 <文系男子>
- 社員の方が1人だけだったものがあり、社員同士の関係や職場環境がわかりにくかった。 <文系女子>
- オンラインは長時間だと疲れるのであまり受けたくないと思った。 <理系女子>

4. 今後のインターンシップ等への参加予定

今後インターンシップ等に参加したいと回答した学生（全体の96.8%）に、参加したいと考えている時期を尋ねた。「12月」が最も多く、次いで「11月」。ともに8割を超える（86.5%、82.0%）。現状では年内の参加を想定する学生が多いことがわかるが、「1月」は6割強（63.5%）、「2月」は半数近く（47.5%）が早くも参加を考えている。

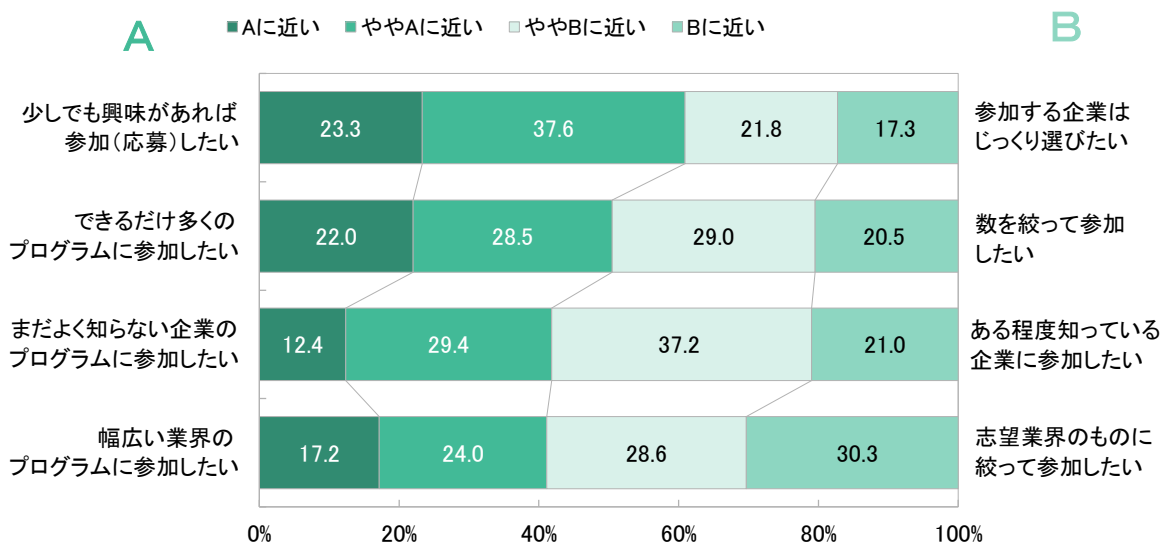


今後の参加方針について考えを尋ねると、「少しでも興味があれば参加したい」という学生が6割を超えており（計60.9%）、「参加する企業はじっくり選びたい」（計39.1%）を大きく上回る。「できるだけ多くのプログラムに参加したい」という学生も半数を超える（計50.5%）。

業界については、「志望業界のものに絞って参加したい」（計58.9%）が、「幅広い業界のプログラムに参加したい」（計41.1%）を上回る。

ある程度業界を絞りつつも、今後も積極的に参加していきたいと考える学生が多いことが読み取れる。

＜今後の参加方針＞



5. 就活準備イベントへの参加

就職情報会社等が主催する就活準備イベント(インターンシップ&仕事研究イベントなど)への参加状況を、開催形式ごとに確認した。全体の約9割(89.8%)が「オンライン形式」に参加経験があると回答し、主流となっていることがわかる。「会場型」への参加経験者はこの3年で大きく増加(37.6%→51.5%→67.5%)、一人あたりの参加回数も増えた。会場型のイベントが復活し、学生も積極的に参加していることが表れている。

今後の参加意向についても形式ごとに尋ねた。「オンライン形式」が91.2%と高いものの、「会場型」への参加を希望する学生が前年より大きく伸びたのが目立つ(53.7%→79.0%)。参加を希望する時期は、会場型・オンライン形式ともに秋から年内の割合が高く、1月以降は5割前後へ減少していく。年内は積極的にイベントに参加し広く業界や企業を見て、志望業界や企業を絞っていきたいと考える学生も少なくないようだ。

<就活準備イベントの参加経験>

	(%)				
	全体	2024年卒者	2023年卒者	文系	理系
会場型に参加	67.5	51.5	37.6	72.6	56.7
オンライン形式に参加	89.8	91.0	91.3	88.1	93.5
いずれも参加していない	4.6	5.4	6.1	5.1	3.6

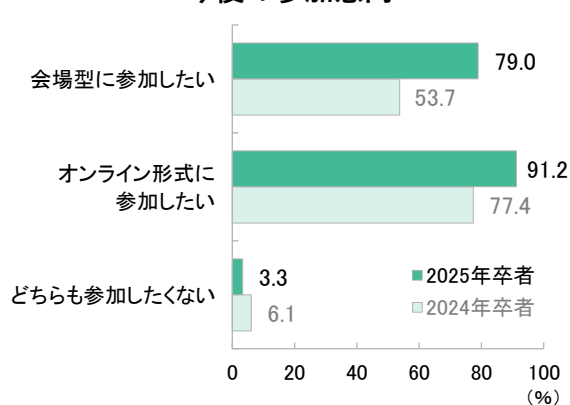
<就活準備イベントの参加回数>

	(回)				
	全体	2024年卒者	2023年卒者	文系	理系
会場型の参加回数(平均)	2.7	2.1	1.9	2.8	2.4
オンラインの視聴回数(平均)	6.2	5.7	6.2	6.4	5.8

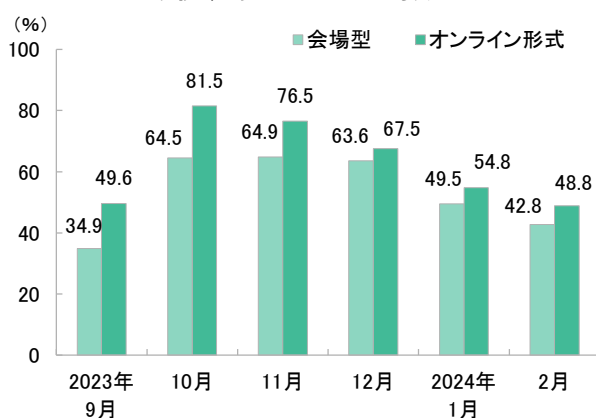
※それぞれの参加者が分母

会場型は会場に足を運んだ回数。オンライン型は同日に複数社を視聴しても1回とカウントした

<今後の参加意向>



<今後、参加したい時期>



■就活準備イベントに参加してよかった点

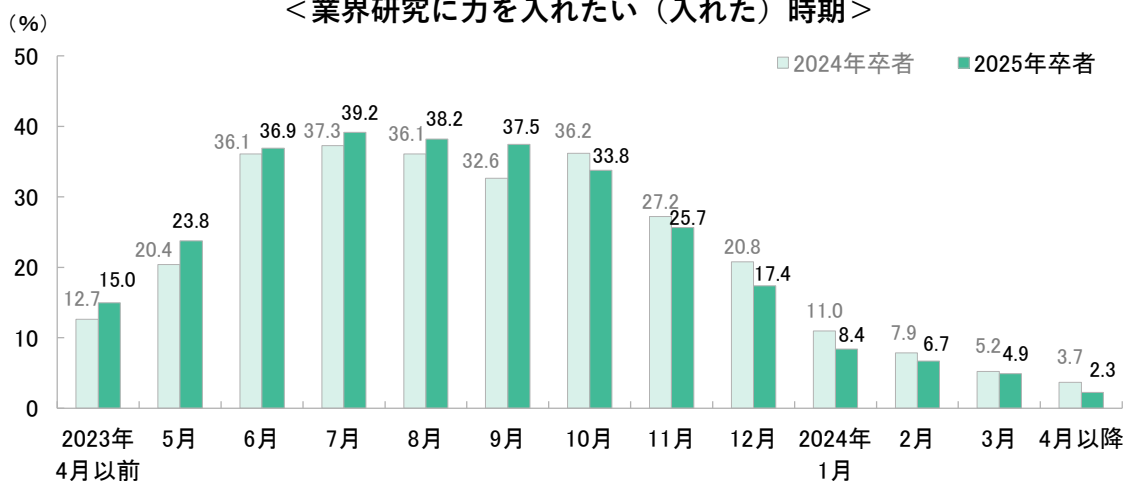
- 業界や企業について短時間で全体像をつかむことができた点が良かった。 <理系男子>
- まったく視野に入れていなかった業界、企業の話も聞いてみて視野に入れるようになった。 <文系女子>
- 1回で色々な企業の説明が聞ける。聞いてみて興味が湧く、湧かないがなんとなく明らかになる。 <文系男子>
- 多くの学生が来ていて、みんなが頑張っているところを見るとモチベーションが上がった。 <文系女子>
- オンライン形式は移動時間を取らず、視聴することができた点。普段研究であまり時間が取れないため、短時間で情報収集できたのはありがたかった。 <理系女子>
- ホームページだけでは分からない情報を知ることができた。後から見るとホームページにあったと分かる情報であっても、直接聞けるのでより記憶に残る。 <理系男子>

6. 業界研究・企業研究に力を入れたい時期

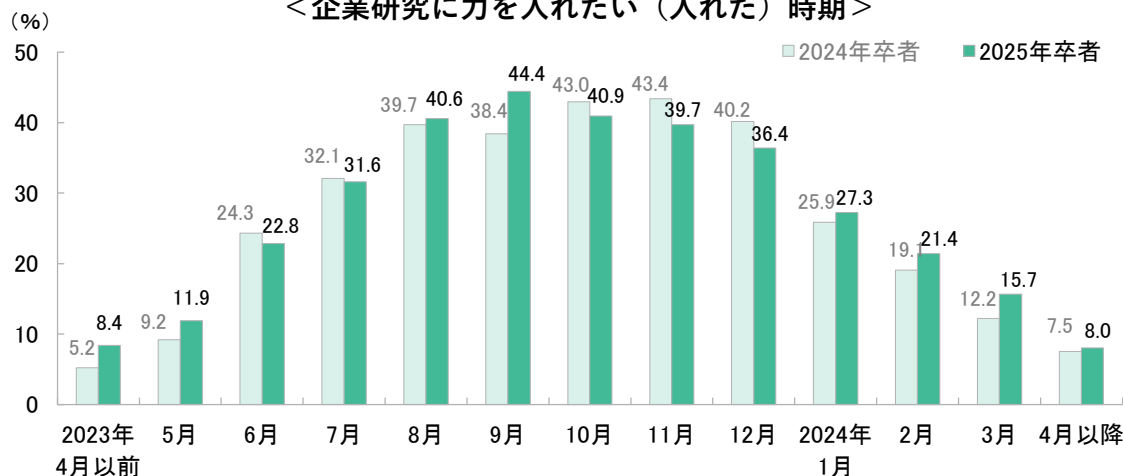
業界研究と企業研究について、それぞれ力を入れたい時期（入れた時期）を複数回答で尋ねた。まず、業界研究は「6月」から3割を超え、「7月」（39.2%）をピークに10月まで3割台が続く。また、「4月以前」から「9月」まで前年調査よりポイントが上昇しており、早期から取り組む学生が多かった様子が見える。

一方、企業研究に力を入れたい時期は「8月」から「11月」にかけて4割前後を示し、夏場から年内までがボリュームゾーン。早めにめどをつけたい意向が見られる。前年と比べると年明け以降のポイントが上昇しており、本選考に向けた企業研究を意識している学生が増えているようだ。

＜業界研究に力を入れたい（入れた）時期＞



＜企業研究に力を入れたい（入れた）時期＞



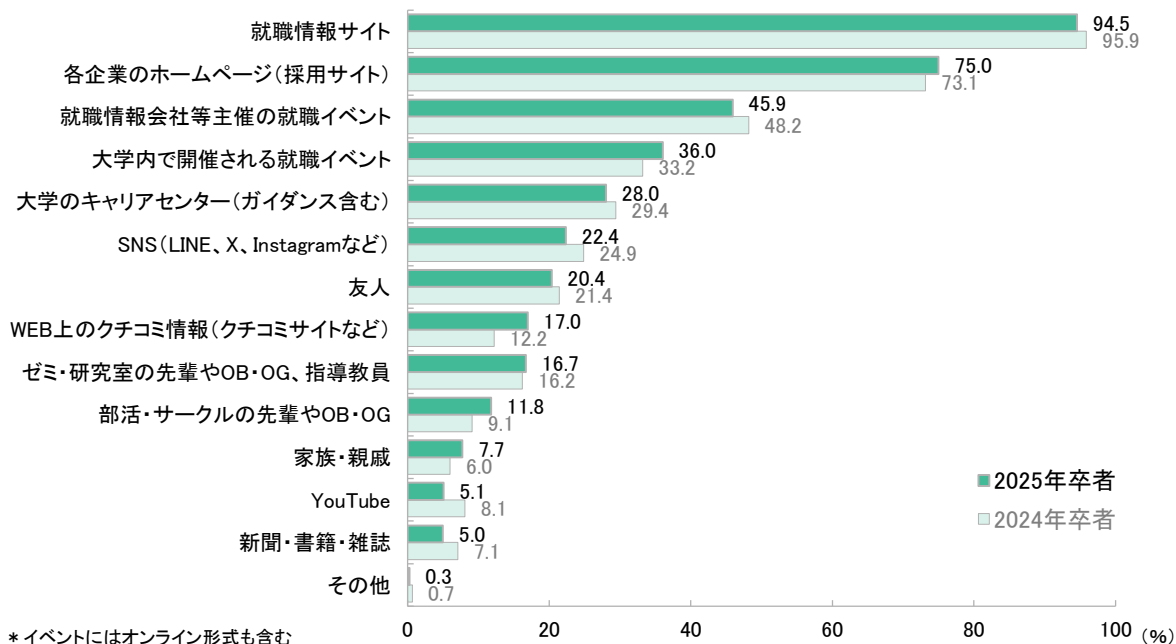
■業界研究・企業研究のプラン（進め方）

- 夏休みの間にある程度自分の行きたい業界を絞ることができたが、企業研究は十分にできなかったため、今年中に気になる企業について隙間なく調べたい。 <文系女子>
- 8月中旬までに業界研究。8月以降からインターンやオープン・カンパニーに少しずつ参加して企業研究。これを年内に終わらせられると、次の本選考に順調に進みそうと感じている。 <理系男子>
- 10月までに業界を絞り、その後、一つ一つの企業への理解を深めて、選考に備えていきたい。 <文系男子>
- 1月～2月には企業を絞っていききたいので、それまでに業界・企業研究を終えていたい。 <文系女子>
- 本選考や早期選考が始まる前に志望動機や、なぜその企業がいいかを言語化できるようにしたい。OB訪問やホームページから情報を得たい。 <理系女子>
- 自己分析は最後まで続くので、自分に合った企業を探す旅は6月くらいまで続くと思う。 <文系男子>

7. 就職活動に関する情報の入手先

就職活動に関する情報の入手先を尋ねた。「就職情報サイト」が9割超と突出して高く(94.5%)、ここに「各企業のホームページ(採用サイト)」(75.0%)、「就職情報会社等主催の就職イベント」(45.9%)が続く。「WEB上のクチコミ情報」や「部活・サークルの先輩やOB・OG」などが前年調査より上昇した。就職活動の情報収集チャンネルが多岐にわたることや、コロナ禍の収束とともに縦の繋がりも戻ってきている様子などもわかる。

<就職活動に関する情報の入手先>

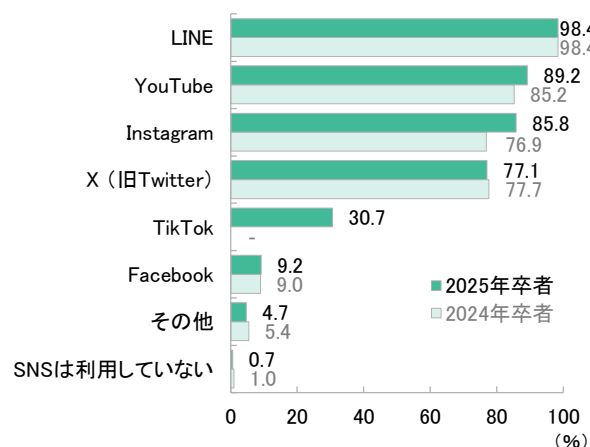


8. SNS 利用状況

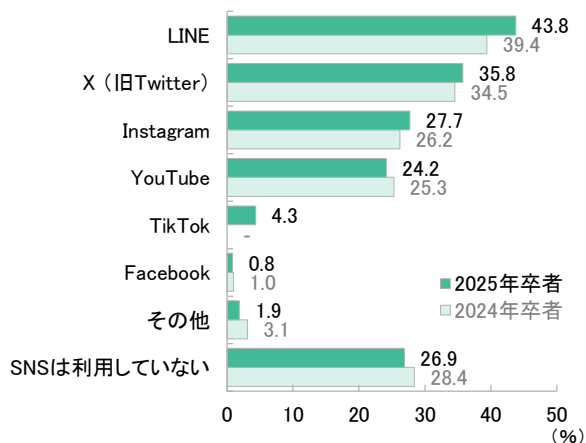
日常生活で利用している SNS として最も多いのは「LINE」、ほとんどの学生が利用している(98.4%)。その後に「YouTube」(89.2%)、「Instagram」(85.8%)、「X(旧 Twitter)」(77.1%)が続く。

就職活動においても「LINE」の利用率は高く、4割を超える(43.8%)。次に「X(旧 Twitter)」が3割強(35.8%)。「Instagram」「YouTube」も4人に1人程度が利用。様々なツールを使って情報収集を進めていることがうかがえる。今後、就職活動が進む中で、さらに利用が広がっていくと見られる。

<日常生活で利用するSNS>



<就職活動で利用するSNS>

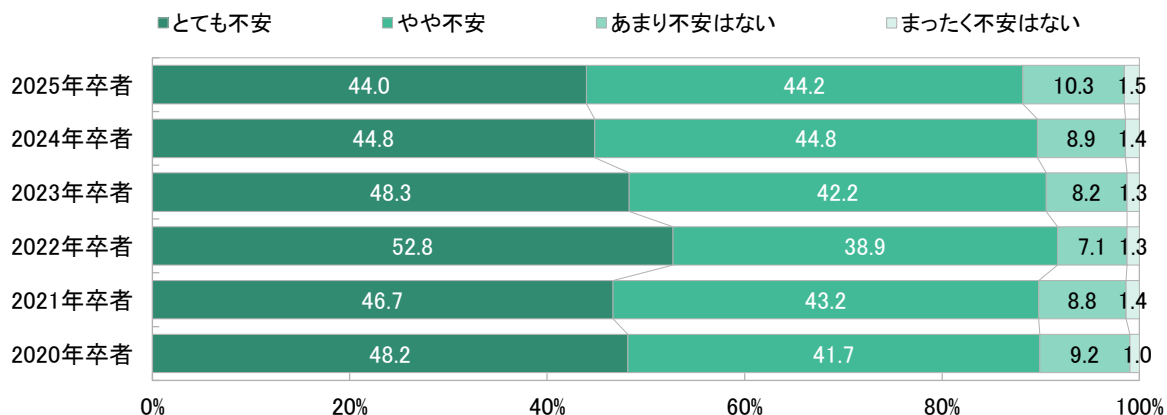


9. 就職活動への不安

自身の就職活動に不安を感じるかどうかを尋ね、経年で比較した。「とても不安」という回答が3年連続で減少し、コロナ禍前の売り手市場の頃よりも低くなった(44.0%)。ただ、「やや不安」を足し合わせると約9割に上り(計88.2%)、大半が不安を感じていると回答した。

周りに遅れをとっていないかといった進捗状況や、自己分析など就活の進め方に関する不安のほか、自分に合う企業が見つかるか、希望の企業に内定を取れるかなど先々の不安を挙げる学生も見られる。

<就職活動への不安>



■具体的な不安

- インターンシップの定義も変わり、就活の早期化が進む中で自分は遅れているのではないかと常に不安と焦りを感じます。 <文系女子>
- 内定獲得までのイメージが掴めないことが不安。選考のあるインターンシップにいくつも応募したが、落とされるパターンが多かったため、本当に内定を獲得できるのか不安に思っている。 <文系男子>
- ガクチカが不安。何か主体的に取り組み大きなことを成し得た経験が弱いため、どうアピールすればよいかわからない。 <文系女子>
- 自己分析など進めているが、これで間違っていないか、自分がちゃんと成長できているのか不安。 <理系女子>
- 面接に苦手意識があるので克服したい。研究が忙しくて就職活動が思うようにできていないため不安を感じる。 <理系男子>
- 早期選考の枠と本選考の枠はどれくらいなのかと不安に思います。インターン経由で内定している先輩が多いのでなおさら気になりました。 <文系男子>
- 選択肢が多く、自分にとってベストを見つけられるか、そこに入社できるかなどを不安を感じる。 <理系男子>

■就職活動に関して、今知りたいことや欲しい情報

- 今の時期はどのようなことをするのがいいか。 <文系男子>
- インターンシップ参加がどれくらい本選考に影響するか。 <理系男子>
- 大手企業にこだわらず、面白い今後伸びそうな企業とも会える場が欲しい。 <文系女子>
- 人事の人が実際にどういうところを見て採用決めているか聞きたい。 <理系女子>
- 自分に足りないコミュニケーションスキル、それを向上させるために気をつけるべきこと。 <文系女子>
- 自分のやりたいことはある程度決まっているので、どの企業ならそれができるのか。 <文系男子>
- 夏休み後、授業と研究と就活との両立の仕方を聞きたい。 <理系男子>
- 内定を早期段階で得て選考を有利にするために、行うべき行動やロールモデルがあれば知りたい。 <理系女子>
- 企業のキャリアステップを知りたいです。どのような方がどのような分野で活躍しているのか。 <文系女子>